

平成30年度  
大学生等による地域創生推進事業

昭和村野尻地区 実態調査報告書



東京藝術大学大学院 箭内道彦研究室

# 1 研究室 & プロジェクト参加メンバー紹介

## (1)東京藝術大学 箭内道彦研究室の紹介

多様な人々が生きる現在の、あらゆるメディアと  
場面で、人を、世界を、心を、  
リアルタイムに動かす映像・画像、そして実像。  
その発想および生成と実行の技術と心得を研究・  
具現化する。

⇒ 「伝える」 が必ず 「動く」 に至るべく。

## (2)プロジェクト参加メンバー

- ・ 川口 実乃里 (大学院1年)
- ・ 田村 五月桃 (大学院1年)
- ・ 松本 伊代 (大学院1年)
- ・ 三町 綾 (大学院1年)



## 2 調査地域 - 福島県昭和村野尻地区 -



### (1) 地域の現状と課題

- ・ 人口の半分超が65歳以上
- ・ 全世帯の半数が1~2人暮らし  
(全国トップクラスの高齢化率)

### (2) 現状と課題に対する地域の対策

区長の渡部喜一さんを中心に、NPO法人苧麻倶楽部と連携し、地域として積極的に大学生の受け入れを行っている。

### 3 地域が望むこと - 福島県昭和村野尻地区 -



#### (1) 地域の希望（昭和村野尻地区が望むこと）

- ・ 大学生との継続的な関係の構築したい。
- ・ 最終的希望は、若者の移住が増えること。

※事前に、電話でヒアリングを実施

#### (2) 東京藝大に期待されたこと

大学生の視点で全国の同世代に、地方での暮らしの感動を伝えてほしい。

⇒何ができるか？

## 4 調査概要 - 受け入れてくれた皆さん -

### (1) 実施期間

平成30年7月1日～3日（2泊3日）

### (2) 受け入れ体制

#### (ア) 責任者

野尻ゆい倶楽部 代表 渡部 喜一さん

#### (イ) 協力体制

野尻ゆい倶楽部

NPO法人苧麻倶楽部

#### (ウ) 宿泊先

シェアベース昭和村



## 5 調査概要 - 宿泊先 -

### 【調査に関する拠点】

古民家再生プロジェクトに取り組むシェアベース昭和村に滞在させていただいた。

シェアベース昭和村のスタッフは全て、県外からの移住者。

スタッフの皆さんは、デザイン関係の仕事に従事しながら、シェアベース昭和村の経営を行っており、移住に関する体験談や貴重なアドバイスをいただくことができた。



## 6 調査の内容 - 集落での暮らしを知る -



奥会津博物館で会津の歴史を学ぶ



集落での暮らしについて話を聞く



住民の人の案内で集落を歩き、学ぶ



自分たちの情報発信のアイデアできることを伝える



目が覚めて、湧き水を味わう



早朝のシタケ収穫体験



藁（わら）結びを体験



藁（わら）で草履（ぞうり）を編む

## 7 調査の内容 - 集落での暮らしを知る -



地域の食材を味わい、語り合う



真夏の雪室を体験する



集落の皆さんとゲートボール対決



別れのあいさつ

2泊3日の行程の中で、特に盛り上がったのは、区長の渡部喜一さんを中心に集落の皆さんと早朝から行ったゲートボール対決。

1日目、2日目と集落の暮らしを学び、体験した中で、最終日の朝は地域の日常行事であるゲートボールを体験することに。

スポーツで汗をかきながらコミュニケーションをとることで、終わる頃には幼い頃からずっとこうしてきた様な深い仲になっていた。

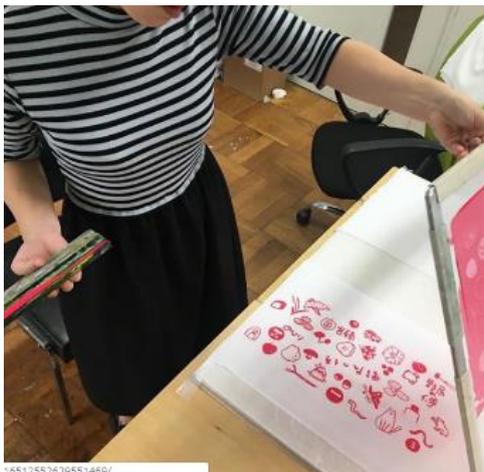
会話すること、体験することが、集落の暮らしを知ることの一番の有効手段であると実感。

## 8 調査を終えて - 私たちにできること -

住民の皆さんが使える「手ぬぐい」をデザイン



調査で知ることができた「地域の魅力」を  
デザインに落とし込む



自分たちにできることを考えて、シルクスクリューンを使用して「手ぬぐい」を制作した。  
調査を終えて1週間後、再び野尻集落を訪ねて、お世話になった皆さんへ直接手渡す。  
心を込めて制作した「手ぬぐい」で感謝の意を伝えると、住民の皆さんからは「宝物だなあ」、「使わずに額に入れるかあ」との声をいただく。

## 9 私たちにできること① - 地域への提案 -

これから集落体験に訪れる大学生へ  
「手ぬぐい」をプレゼントできたら・・・



住民の皆さんから  
集落体験で地域を  
訪れた大学生に手  
ぬぐいを手渡す。



大学生は、地域の  
一員になれたよう  
な、温かい気持ち  
になることができる。



「手ぬぐい」を都  
会での生活で使う  
ことで、集落の暮  
らしを思い出すこ  
とができるのでは  
ないか。

## 10 私たちにできること② - 地域プロモーション動画の制作 -

### 大学 × 企業 × 自治体による「共働」



- ・ 企業からの衣装に提供
- ・ 出演者全員が集落の住民の皆さん
- ・ オール昭和村ロケで、撮影を敢行



## 11 私たちにできること③ - 感謝を含めた動画制作 -

地域の魅力をそのままに・・・  
ドキュメンタリー作品の制作



ドキュメンタリー映像のタイト  
ルは「はっぴい幻界集落」。

「本当の幸せ」とは何か。

野尻集落での体験をとおして  
感じたことをストレートに表現  
した。この映像を見た人に、集  
落ならではの空気感や多幸感な  
ど、昭和村野尻地区の魅力が少  
しでも伝わってほしいとの願い  
を含めて制作した。

企画 / イラスト・やまのり  
構成 / 撮影 / 編集・シロノリ  
川口実乃里  
タイトル・フィルムデザイン・川口実乃里  
手ぬぐい製作・田村くみ子  
松本伊代  
川口実乃里

SPECIAL THANKS  
野尻のみまじま

## 12 あとがき

3日間の調査を終えて、私たちに本当にできることは何か。メンバー4人で喧嘩寸前になるほど考えました。そこで気づいたことは、まずは何よりも「野尻の皆さんに恩返しをしたい」ということでした。そこで、芸大生だからこそできる、オリジナルの手ぬぐいを作り、野尻集落に再び訪れて、感謝の手紙をプレゼントしました。4人それぞれで描いたイラストには、集落での体験を得て感じた魅力をぎゅっと詰め込みました。

「全国の若者世代に、芸大生の視点で、昭和村での暮らしの感動を伝える」ためには何ができるか？その解決策として、動画も制作しました。それは直接的には、若者の移住に結びつくものではないかもしれませんが、私たちが今できることの精一杯の表現にチャレンジしたことは決して間違いではなかったと思っています。

私たち自身も昭和村へ何度も足を運び、現地の皆さんとの交流を重ねることで、福島に対しての思いや、移住への考え方について4人全員の心の中に少なからず良い変化がありました。

今後、都会で生活へと戻っても、何気ない暮らしの中で昭和村での思い出がよみがえってくることでしょう。

これからの私たち自身の行動で、誰かが福島への魅力を再認識し、福島を好きになってくれる、それが、未来の選択肢として「集落への移住」につながるのではないかと考えています。